

価格.com のデータを分析した最新トレンドをお届けする 「価格.com レポート」

2014年の自動車業界は、「自動車」に対する消費者ニーズに変化があった一年に
～ エコカー一辺倒の時代から、エコ+「楽しさ」が求められる時代へ～

昨年に引き続き新型車の発売ラッシュとなった2014年の自動車業界。4月の消費税増税による影響で、国内全体における販売台数の落ち込みは避けられない見通しですが、一部のメーカーからは月販目標の何倍ものセールスを記録するヒット車種が続出しています。こうしたヒット車種を検証していくと、これまでにない斬新な魅力を備えていることがわかります。そこで今回は、今年人気を集めたヒット車種に共通する条件とは何か？消費者のクチコミ情報とアクセストレンドが満載の「価格.com」の「自動車」カテゴリにおけるトレンド分析から検証してみました。

■ 増税前の駆け込み需要も足がかりに、「レヴォーグ」や「ハスラー」が通年にわたりヒット

図1 「自動車カテゴリ」のアクセス推移（過去2年間）



図1は、価格.comの「自動車」カテゴリにおけるアクセス数の推移（過去2年間）だが、2013年12月から2014年3月にかけて大きな山が確認できる。これは、4月からの消費税増税を前に、駆け込み需要が強まったことを意味している。特に、1月13日週のアクセス数は過去2年間で最高の3,846,569PV/週に達しており、その1か月前にあたる12月中旬から4割以上も増加した。なお、この駆け込み需要が終わってからアクセスは下がったが、それ以前の水準よりは高いレベルで推移しており、年末にかけても上昇を続けている。そういった意味では、2014年の自動車市場は、それなりに盛り上がった年だったと言ってよさそうだ。

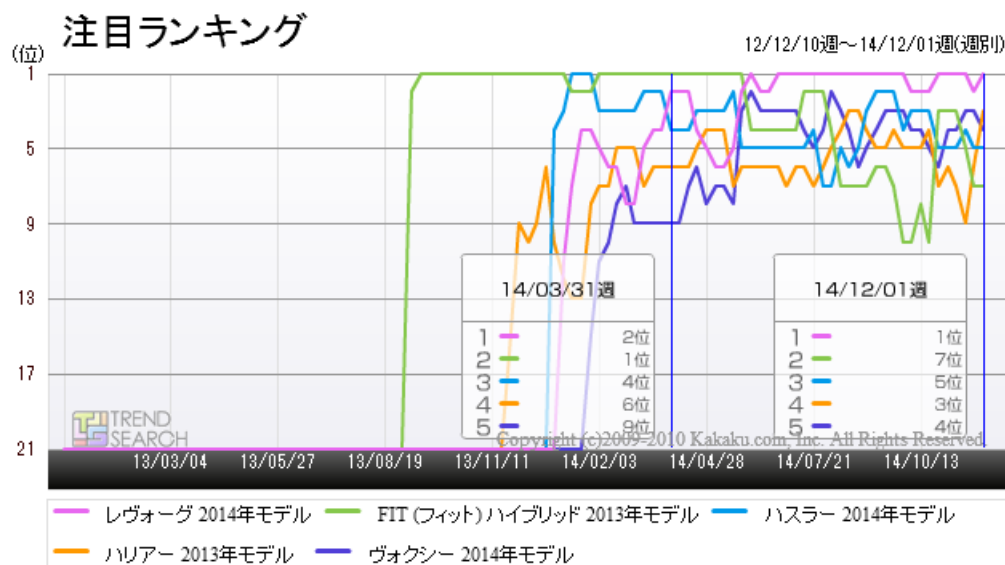
なお、図1で見たような増税前の一大需要期と時期を合わせるように、2013年12月～2014年1月頃に発売された新型車は、出足から好調なスタートを切った。図2は、価格.comの「自動車」カテゴリにおける2014年前半の人気車種5製品の人気ランキングの推移を示したもののだが、スバルのスポーツワゴン「レヴォーグ」や、スズキの軽自

動車 SUV「ハスラー」、トヨタのミニバン「ヴォクシー」、トヨタのクロスオーバーSUV「ハリアー」などが、増税前の需要期から上位を独占していることがわかる。

なかでも、とりわけ今年前半に話題を集めた車種が、スズキ「ハスラー」だ。

「ハスラー」は、軽自動車ながら悪路の走破性を高めるなど、レジャー用途での使い勝手を高めた「軽 SUV」という新しいジャンルの製品で、デザイン性の高い個性的な外観なども高く評価され、「2015 年次 RJC カー・オブ・ザ・イヤー」の最優秀賞に、また「価格.com」のユーザー評価を元にした「価格.com プロダクトアワード」の自動車関連カテゴリの大賞にも選ばれている。JC08 モード燃費は 29.2km/L とすぐれているが、決して軽自動車で一番というわけではない。だが、「ハスラー」が並みいる軽自動車のライバル車種を引き離して、今年 1 年間安定した人気を維持できたのは、走行性能やユーティリティのよさなどに加えて、クルマが本来持つ「楽しさ」や「遊び心」を強く訴求したためであろう。従来の燃費重視の軽自動車選びとは一線を画した「楽しさ」の部分で勝負した「ハスラー」が、このように高い評価を得たことは、今年 2014 年の自動車市場に大きなインパクトを与えたはずだ。

図 2 「自動車」カテゴリにおける人気（注目）上位 5 車種のランキング推移



■ 今年後半の話題をさらった「デミオ」。クリーンディーゼルが完全に市民権を得た

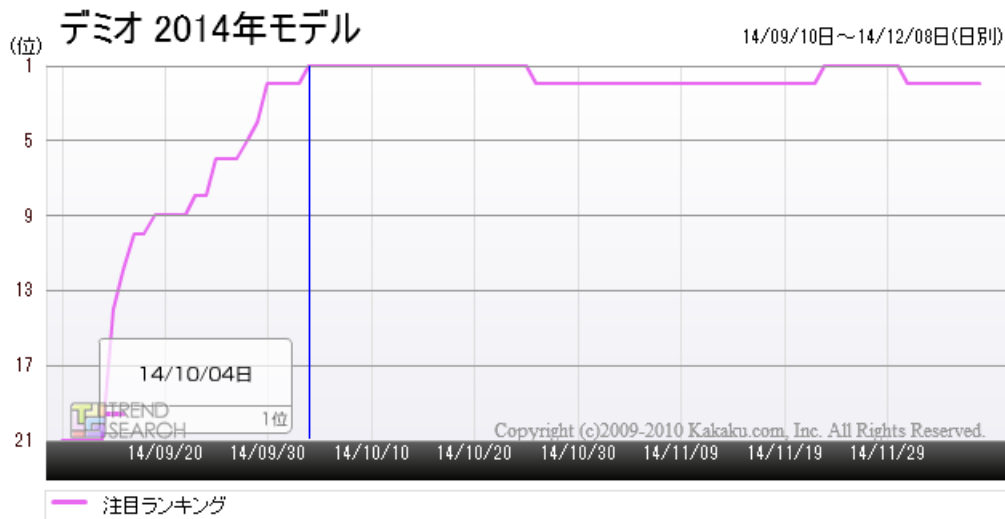
図 3 「自動車」カテゴリにおけるアクセス推移（過去半年間）



「ハスラー」が今年前半の注目車種であれば、今年後半の注目車種は、10月13日に「2014-2015 日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞した、マツダ「デミオ」だろう。「デミオ」が「日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞した理由は、高いトルクと低燃費を両立させるディーゼルターボエンジンを、1.5Lという小排気量で実現した点などにあり、特に走りの「楽しさ」を強く訴求した製品と言える。図3は、価格.comの「自動車」カテゴリのアクセス数を過去半年間分で見ただけだが、9月に大きな山が形成されている。実は、このアクセスの山にもっとも影響したのが、この新型「デミオ」の登場だった。

※価格.comプロダクトアワード：<http://kakaku.com/productaward/>

図4 マツダ「デミオ」の人気（注目）ランキング推移（過去3か月間）



9～10月にフルモデルチェンジされた新型「デミオ」は、国内メーカーのコンパクトカーで初となる1.5Lのディーゼルターボエンジン搭載車をラインアップした。価格.com上では、2012年に登場したマツダ「CX-5」以降、マツダのクリーンディーゼルエンジンに対する評価が高まっており、発売以前から、「デミオ」への1.5Lディーゼルターボエンジンの搭載が話題となっていたが、これが公式に発表された9月には一気に注目度が高まり、人気ランキングの順位も急上昇。10月4日には、歴代の「デミオ」シリーズとしては初となる「自動車」カテゴリにおける人気ランキング1位を獲得した（図4）。

「デミオ」の1.5Lディーゼルターボエンジン搭載車は、2.5Lガソリンエンジン搭載車並みの250N・m（AT）というビッグトルクを発生しながらも、JC08モードで30km/L（MT車）という低燃費を実現。この「デミオ」のヒットにより、ディーゼルエンジン搭載車を、ハイブリッド（HV）車に次ぐ第2のエコカーと見なす向きも出てきた。日本自動車販売協会連合会が発表した11月の新車販売台数（登録車）でも、「デミオ」はホンダの「フィットHV」に次ぐ4位に食い込んでおり、販売台数でもHV車を脅かす存在となっている。また、エンジンだけでなく、外装や内装の高級感も、「デミオ」が消費者から高い評価を得た大きな理由のひとつだ。燃費がよく、ハイブリッド車にはない太いトルクを持ったクリーンディーゼルエンジンは、走りも十分に楽しめる。さらに、このクラスの小型自動車にはなかなかないすぐれたデザインと高級感。マツダ「デミオ」の成功は、これまでのHV車全盛の小型自動車のあり方に、大きな疑問を投げかけた一例とっていいだろう。

※自動車人気ランキング：<http://kakaku.com/kuruma/ranking/>

図5 スバル「レヴォーグ」の人気（注目）ランキング推移（過去半年間）

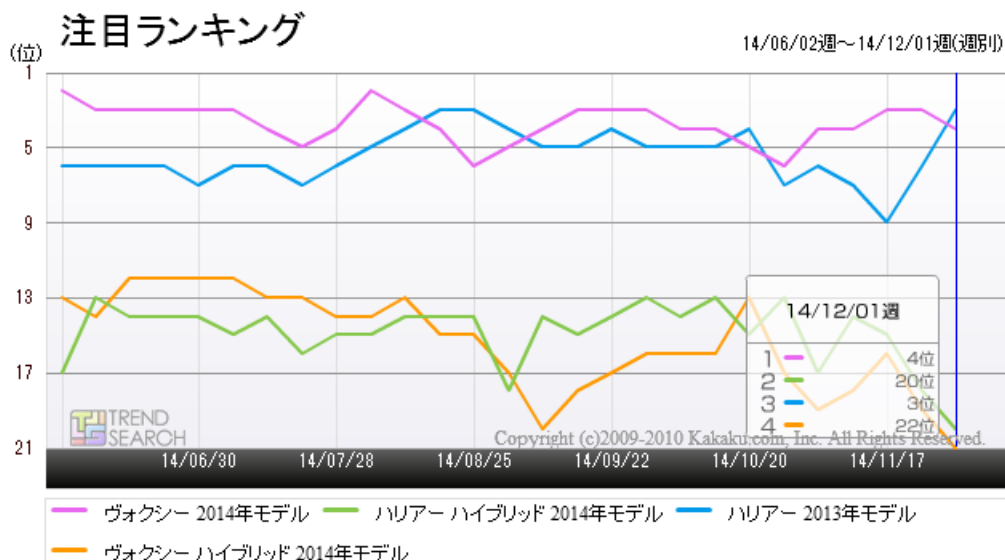


このほか、マツダとともに走りへのこだわりで強い存在感を示すスバルも、今年は矢継ぎ早の施策で注目を集めた。「レヴォーグ」を6月に市場投入すると、瞬く間に人気となり、価格.comの「自動車」カテゴリーにおける人気ランキングでは、マツダ「デミオ」と1位争いを繰り返してきた。ほかにも、「レガシィ」のフルモデルチェンジや「インプレッサ」のマイナーチェンジなども実施し、スバルが誇る安全運転支援機能「アイサイト ver.3」の採用車種を一気に拡大した。「アイサイト ver.3」は、衝突回避・軽減ブレーキをはじめ、時速0kmから前車を追従できるクルーズコントロールなどが特徴で、世界的にも評価が高い安全運転支援機能。欧州をはじめとする世界市場では、安全装備の質や内容を競う動きが強まっており、スバルを筆頭に国内メーカーでも、強く意識され始めている。

■HV 推進のトヨタが着々とシェアを拡大。対するホンダは、相次ぐリコールで消費者の信頼を失う

では、ここ数年市場を牽引してきたHV車はどうだったのか、といえ、こちらも全盛期ほどではないとはいえ、安定した人気を持続している。特に、「プリウス」で市場を先行しているトヨタは、HV車のラインアップ拡充を加速させており、今年はミニバンの「ノア」や「ヴォクシー」、クロスオーバーSUVの「ハリアー」など、小型車以外のHV車の人気が高まった。

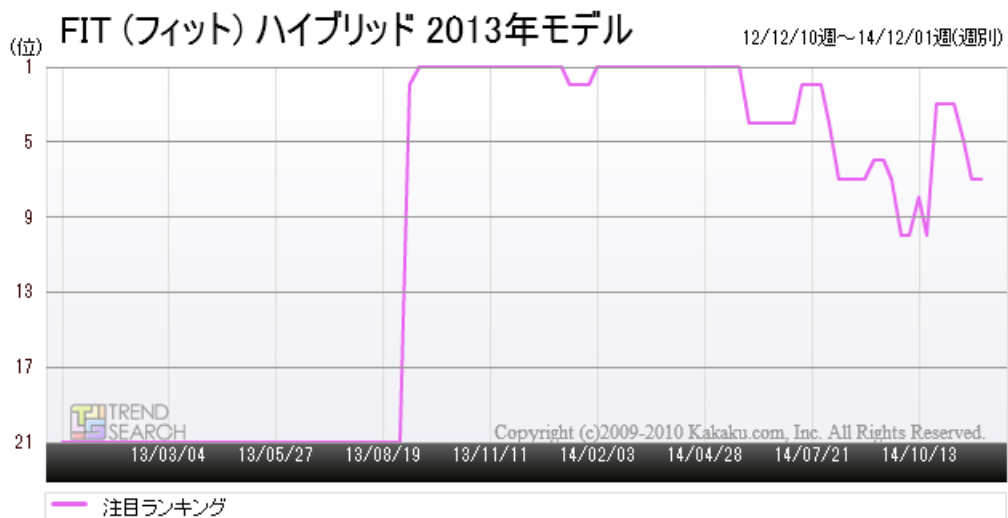
図6 トヨタ「ヴォクシー」と「ハリアー」の人気（注目）ランキング推移（過去半年間）



価格.comの「自動車」カテゴリにおける人気ランキング（図6）でも、これらの車種はじわじわと順位を上げてきている。また、トヨタは、5番ナンバーサイズのミニバン「エスクァイア」のHV車を10月末に発売したほか、12月8日にHV車で国内最量販車種となる「アクア」のマイナーチェンジも実施しており、HV車の販売テコ入れに余念がない。

このようにHV車が好調なトヨタに対して、苦戦しているのがホンダだ。HV車の低燃費競争でトヨタを迎え撃つホンダであるが、今年2014年は、主力車種の「フィット ハイブリッド」が5度のリコールとなり、消費者の不信を買った。図7は、「フィット ハイブリッド」の、「自動車」カテゴリにおける人気ランキングの推移であるが、昨年2013年は首位を走っていた人気も、今年の6月以降は徐々に下がり始め、今やベスト5圏外となってしまっている。車種に対するユーザーレビュー評価も下がり続けており、かなりの痛手だ。同様に度重なるリコールとなった「ヴェゼル」も秋以降人気は凋落しており、好調なトヨタと対照的な状況になってしまった感がある。12月1日に、5ナンバーのコンパクトセダン「グレイス」で巻き返しを図りたいところだが、現在のところ、大きなヒットとなりそうな動きはない。

図7 ホンダ「フィット ハイブリッド」の人気（注目）ランキング推移（過去2年間）

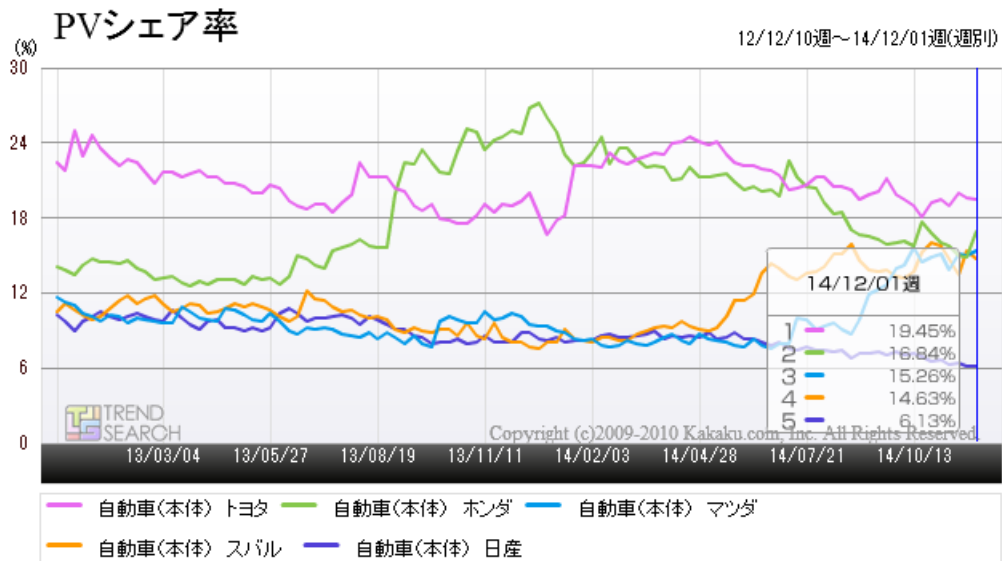


■大手メーカー4社のアクセスシェアはほぼ拮抗する構図に

以上のように、HV車推進のトヨタ、ホンダに対し、走りにこだわるマツダやスバルが対抗する構図が鮮明となってきたわけだが、価格.comの「自動車」カテゴリ全体に占める大手メーカー5社のアクセス数シェアの割合を見ると、今夏以降に上記4社が14～19%で拮抗しており、それまでのトヨタとホンダによる寡占的な状況はすでに過去のものとなってきた感がある（図8）。

HV車がもはや当たり前となった現在、低燃費であることに加えて、走りの楽しさや安全装備の充実度、内外装の高級感など、消費者のニーズはますます多様化を極めていく。2015年の自動車市場では、こうした消費者のニーズに即応するスピード感が、以前にも増して求められそうだ。

図8 「自動車」カテゴリにおける大手メーカー5社のPVシェア率推移（過去2年間）



- 価格.com自動車・バイク カテゴリ： <http://kakaku.com/kuruma/>
- 価格.com自動車カテゴリ 人気ランキング： <http://kakaku.com/kuruma/ranking/>
- 価格.comトレンドサーチ： <http://kakaku.com/trendsearch/>
 価格.com ユーザーの行動・クチコミデータから市場状況を分析することに特化したマーケティングサービス

【価格.com サイトデータ】（2014年9月末現在）

月間利用者数 4,672 万人、月間ページビュー8 億 7,016 万 PV、累計クチコミ件数約 1,900 万件。
 <月間利用者数の内訳> PC：2,774 万人 スマートフォン：1,852 万人 モバイル：46 万人

【株式会社カカクコム 会社概要】

所在地： 東京都渋谷区恵比寿南3丁目5番地7 恵比寿アイマークゲート
 代表取締役： 田中 実
 企業情報： <http://corporate.kakaku.com/>
 事業内容： サイトの企画・運営
 当社運営サイト一覧： <http://corporate.kakaku.com/company/service.html>

データを引用・転載いただく際のクレジット表記について

本レポートの引用・転載の際は、必ずクレジットを明示くださいますようお願いいたします。
 例)「価格.com レポート」より、「価格.com」のデータ分析によると…など